

小学校訪問による小学生との交流		(2) 小学校との連携・交流	
施設種別	ふたば保育園 (民間保育園)	(作成者職名)	5 歳児担当
園概要	<p>園児数：131 人 (うち、5 歳児 19 人) 3・4・5 歳児混合クラス：3 クラス          就学先小学校数：5 校          主な就学先小学校及び予定人数          泉谷小学校 1 人、椎名小学校 3 人、扇田小学校 2 人、金沢小学校 3 人、          おゆみ野南小学校 10 人          住宅地にある 130 名定員の保育園。保育園の隣にはミカンやびわなどがなる果樹園          や大きな畑、広場があり、季節ごとの自然に触れながら食育活動や日々の保育を行っ          ている。夏祭りやボランティアに卒園児が来て園児と交流する機会がある。</p>		
<実施時期>	2020 年 11 月おゆみ野南小学校、12 月椎名小学校		
<幼児期の終わりまでに育って欲しい姿に繋がる部分>			
協同性、道徳性、規範意識の芽生え、社会生活との関わり、思考力の芽生え、数量や文字などへの関 心・感覚、言葉による伝え合い			
<活動のきっかけ>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふたば保育園はおゆみ野南地区の住宅地に立つ保育園で 2 校の小学校と交流を過去 10 年以上にわ たり毎年実施している。おゆみ野南小学校まで徒歩 8 分、椎名小学校は徒歩 20 分。年長児の就学先 はその 2 校だけではないが、園長がおゆみ野南小学校の評議員をしていたこともあり、小学校への 期待を膨らませ、不安を軽減し、スムーズに小学校生活をスタートさせることができるような交流 は子どもたちにとって大切な事だと保育者は認識している。</li> <li>・2020 年新型コロナウイルス感染症の流行があり、交流会の予定もどうなるか…と考えていたとこ ろ、椎名小学校のほうから年長児と交流を図りたいとの申し出を頂き交流を実施できた。</li> <li>・コロナ禍ということでおゆみ野南小学校との交流は未定であったが、就学に向けて小学校との交 流は大事だと思い、おゆみ野南小学校にも声を掛けた。</li> <li>・椎名小学校は創立 149 年の歴史があり伝統がある小学校で、おゆみ野南小学校はおゆみ野南地区 にあり住宅地に立つ創立 16 年で建物も近代的な小学校である。2 校はそれぞれ雰囲気の違いの立 地・建物で 2 校以外に就学予定の子どもたちにも自分が就学する学校の雰囲気と似た部分を感じる ことができる。</li> <li>・交流の前には就学前健診がそれぞれの小学校で行われるため、自分の就学する小学校に行ったこ とで「就学前健診で行った学校は体育館が大きかった。」「色々な教室があってもっと見てみたい。」 と年長児は小学校の様子や気づいたことを子ども同士や保育者に話す姿があり、小学校就学への興 味・関心が見られる。小学校への期待が出てきたこの時期に交流ができるということが年長児にと ってとても良いタイミングであると感じている。</li> <li>・交流会はどちらの学校も小学 1 年生が生活科の授業の一環として案内状の配布や準備をしてい る。</li> </ul>			

### <活動のねらい>

- ・小学生との交流を通し、期待を持って活動に参加し、子どもたちの触れ合いを楽しむ。

### <経験する内容>

- ・小学校は具体的に、どんな教室がありどんな学びをするのか学習することへの期待と興味を持つ。
- ・1年生の態度や対応を通して1年生の思いや考え方を知る。
- ・文字や数字に関心を持つ。
- ・自分の意見や感想を話したり、相手の話を聞く。
- ・手作りのゲームや楽器を楽しむ。

### <新型コロナウイルス感染症に対する活動の工夫>

- ・コロナ禍ではあったが、感染症対策を行いながら、去年は小学校を訪問した。子どもたちはマスクを着用し、学校に着いて玄関で消毒を行い入室し、会場は窓・ドアを開放し換気を行っていた。
- ・学校からは以前まであった学校見学をパワーポイントに変更して学校紹介をしていた。(椎名小学校)
- ・お店屋さんも以前までは1学年4クラス全員で行っていた内容を1クラスに縮小し、体育館でソーシャルディスタンスを保ちながら実施した。

### <活動の内容>

- ・各小学校から事前に園児一人に1枚ペア活動の招待状を貰っているので、当日はそのペアでお店屋さん巡りをした。例年は各クラスで開いていたお店屋さんペアで各教室を回っていたが、今年は感染症対策の為、2校共、参加は1クラスだけで体育館でのお店屋さん巡りを実施した。小学生が作った手作り玩具のお店が体育館に椎名小学校は5ブース、おゆみ野南小学校は6ブース開いていてペアでそれぞれのブースを回って遊んだ。
- ・手作り玩具のお店には季節の自然物を使った☆まつぼっくりけん玉☆魚釣り☆コマ回し☆的あて☆かんむりづくり(椎名小学校)☆どんぐり迷路☆手作り楽器の演奏会☆ボーリング☆魚釣り☆箱の中身を当てるゲーム☆ペットボトルロケット(おゆみ野南小学校)等があった。
- ・椎名小学校はいつも実施している学校見学のかわりにパワーポイントを使っての学校紹介の実施となった。クイズ形式になっていて、園児が楽しみながら参加した。
- ・椎名小学校では、交流会の始めに教頭先生が「4月から小学校に来るのを楽しみに待っているよ」と挨拶してくれた。

☆魚釣りをしている様子



☆どんぐり迷路をしている様子



☆的あてをしている様子



### <活動でみられた子どもの姿>

・学校に着くと校舎が大きいことに驚き「ここは何をすところなの？」と聞く子がいたり校庭の広さに「鬼ごっこしたら楽しそう。」等と話す姿が見られた。

・園児1人につき小学生2人のペアで活動した。



#### ☆小学生から今日の流れの話を聞いている様子 (おゆみ野南小学校での様子)

・初めて会う小学生のお友だちに緊張の表情を見せていたが、一緒に回っているうちに打ち解ける様子が見られたり、保育者が側に来るとほっとした表情に変わる様子があった。

・手作り玩具で遊ぶが、初めから積極的に自分の行きたい所に行って遊べる子やペアの小学生を置いてどんどん行ってしまふ子もいれば、どうしていいかわからず小学生の後について行きやっごらん。と促されながら遠慮しがちに参加する子もいた。慣れてくるとどの子にも笑顔が見られ楽しんでいた。

・けん玉が入ったり、こまがたくさん回る様子を小学生が

「すごいね！」

「名人だね！」と

褒めてくれると嬉しそうな表情を見せていた。



#### ☆じゃんけんゲームで勝ちのこりメダルを貰う様子 (椎名小学校での様子)

・かんむり作りでは、使いたい葉っぱやススキを「これ使ってもいいの？」とペアの子に聞く

### <環境構成・教材や保育者の援助等>

・事前に頂いた招待状を配りながら交流会ではどういことをするのか、小学校はどのい所か等の話をして期待が持てるようにした。

・早速招待状を開けて字が読める子は自分で読んでいたが、「先生これなんて読むの？」と字がわからない子に対しては50音表を見せながら一緒に読むようにして文字に対する興味を持てるようにした。

・1年生の先生との事前打合わせは、電話で日時の決定やペア決めのやりとり、招待状を届けに来て下さった時に顔を合わせての計3回行った。ペア決めの際には配慮が必要な子が数名いたので伝えた。

・当日はリュックを背負って出かけるので、荷物の確認を行い、自分の持ち物の管理について伝えると共に大切さの理解へと繋げるようにした。

・引率者はおゆみ野南小学校2名、椎名小学校3名に園長先生が様子を見に顔を出してくれた。

・小学校まで歩いて行き信号の前で「進め」「止まれ」の確認等の交通ルールやよそ見をして歩く子に対して前を見て歩かないと危ない等の危険認識ができるような言葉がけをした。



#### ☆出発前のお話の様子

・学校に着いたら大きな声で挨拶をして子どもたちに挨拶の大切さを伝えた。

・入口で手の消毒を行う為、きちんと出来ているかを確認したり、始まる前にトイレに誘導した。

・交流中は配慮が必要な子と一緒に回って様子見る職員と全体を見て回る職員とで連携を取りながら見守った。

・緊張している子の側に行き「これはどうやって遊ぶのかな?」「〇〇ちゃん上手に出来てるね、すごい！」等と声を掛けて緊張が和らぐように援助し

姿が見られたり、貼るのが難しい時にペアの子が手伝ってくれたりとお互いに、やりとりしながら完成させていた。(椎名小学校)

・椎名小学校のパワーポイントでの学校紹介では「机はこんな形なんだね。」「トイレは和式なんだね。」「理科室って何するところなの？」と驚く姿やクイズ形式で正解すると喜ぶ姿が見られた。

・説明する小学生の言葉一つ一つを真剣に聞いていた。

・交流会の終わりには数名の子が代表で感想やお礼を前にでて話した。「こんなすてきな会を開いてくれてありがとうございます。」と立派なコメントを話す姿も見られた。

保育園では、行事の際の始めの言葉・終わりの言葉を年長児が



みんなの前に **☆交流会の感想を話す様子**  
立って話す経験 (椎名小学校での様子)  
をしている。

・帰り道では「来年は私たちが年長さんを招待するんだよね、ちゃんとできるかな。」と期待の眼差しを見せた。

・交流会後は、留守番していた職員や年下児に「楽しかった～。魚釣りで大きいのが釣れたよ。」「お姉さんたち優しかったよ。」等と感想を話す姿があった。

・小学生から貰った招待状が嬉しかったようで遊びの中で手紙を書いて友だちとやり取りする姿が見られるようになった。分からない字を保育者に聞くことも増えた。

・お古のランドセルを使って学校ごっこをする姿も見られるようになった。

た。

・小学生に自分の思いを伝えられない様子の子には、「どうしたの？何か困っていることある？」等と声を掛け、「そういう時はこう言ってごらん！」とかそれでも言えずにいたら「○○みたいなんだけどうどしたらいい？」等と代弁し、小学生とやりとりできるようにした。

・交流会の終わりに挨拶する子は事前に椎名小学校に行く3名に声を掛けていた。思ったことを話してみてね。と伝えていたが、お礼の言葉や楽しかった感想をきちんと話していたので感動した。

・交流会後は小学生が手作りしていた玩具が作りたいという子がいたので、秋の自然物や廃材を用意して保育園でも作れるようにした。



☆交流会後、帰園する様子

<卒園児の姿>

・おゆみ野南小学校・椎名小学校共にふたば保育園の卒園児がいた。小学生になった卒園児たちはどの子も先生の話を中心に聞く姿や交流会の中で司会をしたり、前に出て話をしたりと立派になっていた。こちらから話掛けると恥ずかしそうに控えめに手を振る子もいて落ち着いた雰囲気になっていた。

## <成果と今後の課題>

- ・交流会は子どもたちにとっても小学校への期待が持て、保育園生活が終わったらそれでおしまいではなく、小学校の先生への引継ぎをして一体となって子どもたちの成長を見ていく連携に繋がる機会となっている。
- ・課題としてはお店屋さんで使用していた廃材にアレルギー物質が含まれる恐れのあるものがあった（牛乳パックやクルミ等）為、事前の打ち合わせはしていたものもう少し細かい確認が必要であった。
- ・交流会後に年長児懇談会を開催して、保護者に交流会での様子を伝えたり、小学校に提出する保育所児童保育要録の説明や通学路やルームまで実際に歩いてみることや困ったことがあった時に子ども 110 番のお家を子どもと確認しておく等入学までの準備や心構えについて話をした。
- ・保育園生活ではマスクを付けての活動はほとんどなく 3 月の卒園式後から年長児が自分たちでやりたいことを考えて活動する 1 週間はマスクを付けて過ごす経験ができるよう援助できるように心がけた。
- ・年長児が普段から行く散歩は徒歩 3 キロ以内の公園等と近隣だが、小学校まで歩いて通学する子の中には 30 分程かかる子もいる為、お別れ遠足では交通機関を利用して遠くまで歩いたり、自分たちでやりたいことを考えて活動する期間（1 週間）は普段クラスでは行かない遠くの公園に行った。

## <カリキュラムコーディネーターのコメント>

### ○園の特徴ととりくみの工夫

ふたば保育園では、2つの小学校との交流を過去10年にわたって実施しています。このような長年の交流の積み重ねにより、コロナ禍においても小学校との緊密な連携の下で、充実した取り組みが行われていました。

**①雰囲気異なる2校との交流**：ふたば保育園が交流している2校は、創立年数などの違いからそれぞれ雰囲気が異なっています。雰囲気が異なる複数の小学校で交流活動を行うことで、子ども達の小学校に対する知識やイメージがより豊かになり、小学校への関心や期待も高まります。ふたば保育園の就学先小学校数は5校であり、交流活動をする小学校以外に就学する子どももいますが、そのような子ども達にとっても交流した小学校と就学時検診等で訪れた自分が就学する小学校を比較したりしながら、小学校に関する知識やイメージ、関心や期待を膨らませることができると言えます。

**②小学校との交流を通じた経験の広がりや深まり**：ふたば保育園と小学校の交流活動では、小学校から事前に子ども達に招待状が届けられたり、園児1につき小学生2人がペア（組）になって活動したりといった工夫がありました。これらの工夫により、子ども達が期待を高め、安心して交流活動に参加することができると考えられます。同時に、これらの工夫は文字に親しんだり、異年齢児との関わりを深めたり、小学校まで歩くなど普段の園生活での子どもの経験をさらに広げ深める機会ともなっています。その際、文字が分からない子どもに対して50音表を見せながら保育者が一緒に読む、小学生に自分の思いを伝えられない子どもの代弁をしてやりとりを繋ぐ、小学校までの道中で交通ルールや危険認識に関する言葉かけをする等の保育者の適時的な援助が子どもを支えていたと言えます。

### ○さらなる展開に向けて

千葉市の保育所・幼稚園・認定こども園等では、複数の小学校に就学する園が多い実態があります。交流活動をする小学校は1校に限られるとしても、就学時検診等で訪れた各自の就学先の小学校の情報をクラスで共有したり、小学校のお便りやウェブサイト等の情報を掲示したりするなど、多様な方法で小学校の情報に触れる機会を設ける等の工夫ができます。

保育所等と小学校との交流活動で小学校を訪れる場合、保育所等の子ども達が「お客さん」としてもてなされる立場になることが多くなります。しかし、ふたば保育園の子ども達が交流会の終わりに感想やお別れの言葉を述べていたように、幼児からの発信・発表の機会も設けることで、幼児が自信をつける経験にもなります。小学校との交流活動の際に、保育所等の子ども達も歌を歌ったり、音楽に合わせてダンスや体操を披露したりするなどの工夫もあって良いと思います。また、小学生にとっても、保育所等のことを懐かしく思い出すとともに、自分達の成長を実感したりする機会になると言えます。

**【砂上史子/すながみ ふみこ】** 千葉大学教育学部教授、博士(子ども学)、臨床発達心理士、臨床心理士、公認心理師。研究テーマは、保育における子ども同士の関わり、保育者の実践知、リスクを抱えた子どもや保護者に対する保育者の専門性の向上等。浦安市保育カウンセラー等を務める。近著は、『「おんなじ」が生み出す子どもの世界—幼児の同型的行動の機能—』(東洋館出版株式会社、単著)、『子ども理解と援助(新しい保育講座③)』(ミネルヴァ書房、共著)、『保育原理(乳幼児教育・保育シリーズ)』(光生館・共著)他

